

防災・減災取り組み事例集

～誰もが主役であることをねがって～

2019年3月

宝塚広域ボランティア連絡委員会

目次

はじめに・・・4

事例紹介

1. 地域の特性を知る－見つける

事例その1 自助－「自分がやるべきことは自分で準備する

－防災から減災へ

荒神山手自主防災会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

事例その2 逆瀬台周辺地域での官・民・事業所協働による防災避難

－自分の身は自分自身で守る取り組み

宝塚第2地区防災会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

事例その3 地域の災害の歴史を調べ、災害に備える

良元コミュニティ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

2. 安否確認－助ける

事例その1 災害時における、体制作りと活動方法

小浜自治会自主防災会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

事例その2 独自の災害時安否確認登録制度を立ち上げ実践する

宝塚宝南自治会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

事例その3 緊急時支援チームの立ち上げ

福井・亀井町自治会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

事例その4 災害時安否確認訓練

中山台自治会自主防災会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

3. 避難誘導－逃げる

事例その1 水害時の一時避難所協定書の締結

－全災害に対応する避難所協定の締結

まちづくり協議会コミュニティ末広、伊子志自治会

逆瀬川自治会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

事例その2 タイムラインを活用した避難誘導體制の構築

高司小学校区まちづくり協議会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19

4. 避難所－生活する

事例その1 防災訓練（避難所開設訓練）

光明地域まちづくり協議会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20

事例その2	文化・言語・国籍・年齢や性別・障がいなどを問わずすべての人に優しい ユニバーサルな避難所運営を目指す	宝塚市末成小学校地域まちづくり協議会	22
事例その3	避難及び避難所開設訓練	宝塚第一小学校区まちづくり協議会	23
事例その4	第8回大規模避難訓練	中山台コミュニティ災害対策委員会	25

5. 見守り—支える 日常／非常時

事例その1	みんなが主役の防災訓練	あおぞら自主防災会	27
事例その2	自治会内外問わず出会った人に声掛け	宝塚御殿山北自治会	29
事例その3	管理組合と自治会統合の取り組み	中山五月台6丁目防災委員会	31
事例その4	防災用品の展示と購入代行	中山台自治会自主防災会	32
事例その5	防災訓練／防災研修旅行／広報誌「まめだより」	米谷自治会自主防災会	34

災害の発生に備えて

～災害ボランティアセンター運営訓練の実施～

宝塚市社会福祉協議会ボランティア活動センター	36
------------------------	----

誰もが主役の防災・減災を願って

宝塚広域ボランティア連絡委員会	37
-----------------	----

災害にも強いまちづくりを目指して

佛教大学 後藤 至功	39
------------	----

わたくしたち宝塚広域ボランティア連絡委員会は、2011年6月より、東日本大震災被災地への支援を目的に活動を開始したボランティアグループです。

被災地、殊に宮城県南三陸町の皆さんとの交流を基に、必要なものを、必要な時に届けるという「物」の支援から始まり、お互いの地を歩き来し、直接お話を聞き合い、語り合うことで「心の支え合い」ができる関係を築いて参りました。そして、当初「支援をしている」と思っていた私たちに、「今度、宝塚で災害が起こったら、そっちは大丈夫なの？」と問いかけられる関係となり、改めて、地元宝塚での防災・減災活動の重要性にも気づかされることとなりました。

そこで、市内の自主防災会、まちづくり協議会の皆さんが主体的に行われている防災・減災活動を紹介する展示会「ご近所の底力 防災・減災取り組み展」を2014年より開始し、本年5回目を迎えました。この間、展示だけでは伝えきれない活動者ならではの悩みや、共通する災害リスクへの課題をもって交流する「意見交換会」等も実施し、「防災・減災」に取り組む団体の皆さんが地域を超えて情報を交換されたり、お互いの訓練に足を運びあったり等、顔の見える関係に発展していくことにも繋がりました。

この度、これまでに「取り組み展」にご協力頂いた地域の皆さん方が主体的な発意を基に「防災・減災」を願い、実践されている活動の尊さに鑑み、その取り組み事例を広く紹介できるよう、本事例集を編纂させて頂く運びとなりました。

編纂に当たりましては、各団体の活動内容の着目点を次の5つのテーマのもとで紹介させて頂きました。

- 1 地域の特性を知る — 見つける
- 2 安否確認 — 助ける
- 3 避難誘導 — 逃げる
- 4 避難所運営 — 生活する
- 5 見守り — 支える 日常/災害時

本事例集に掲載されている内容は各団体の活動の一部分に過ぎず、また、市内には、他にも工夫に満ちた活動を実践されている皆さんがおられると思います。本事例集をご覧になって「もっと知りたい」「こんな方法もあるよ」といったお声が聞こえ、宝塚での「防災・減災」活動がさらに多くの市民の皆さんによって「実践」へと歩みを進められる一助となることを願いつつ、皆さまのお手元へ届けさせて頂きたいと思います。

2019年3月

1. 地域の特性を知る—見つける

事例その1 自助 - 「自分がやるべきことは自分で準備する」 ～ 防災から減災へ～

団体名 : 荒神山手自主防災会

世帯数 : 16世帯

●この活動に至ったきっかけ

- ①地域環境が土砂災害危険区域に指定されている。
- ②我々の経験を超えた想定外のことが起きることを想定する。
- ③「災害を0にするのではなく、減らすという発想」を各家庭が持つ。
- ④行政機能自体がマヒしたり、災害があまりに想定外だったことで、結果、地域防災計画どおりの動きができず、大きな被害が発生する。



●活動の内容

- ◆行政に頼らない
- ◆「行政がやるべき災害対策と、自分自身で行なえる災害対策の役割分担を分ける」
- ◆これまでのような「お客様の防災対策」という他力本願ではなく、「やるべきことは自分でやる」という自力避難的発想に転換しなければならない。

以上の観点から、実際的な知識の収集と行動。まず自分でできることから始める。

資料として、宝塚市消防署予防課「防災器具助成金」を利用して「東京防災」を購入し各戸配布し知識の習得と準備という行動を啓蒙した。

●参加者の意見など

◆良かったこと

地域内で2018年9月8日の大雨による土砂災害が現実の発生したことを経験して、住民自身が、「実際に災害にあうという前提で生活を考えよう」という理解が深まった。

◆改善したい事

16世帯であり比較的コミュニケーションは取りやすいが高齢化が進んだので、更に小グループでの活動が必要と考えられる。(共助)

●今後への課題

◆自助共助公助の三助を踏まえて、それぞれが絡み合うことで、大きな災害も被害を最小限に抑えることができる共通認識を高める。

◆多様な地域特性、ライフスタイルに合わせた現実的な防災アクションの習得。災害の種類によって適切な避難所は、そこへいく方法はなど想定外を想定イメージする。

◆各家庭における防災リーダーの養成と防災ルールの構築。

災害対策に想定外という逃げ道を造らない。逃げ道を作ることは「死」を招くだけ。だからこそ、「自分がやるべきことは自分で準備する」という考え方を徹底する。命を守るのは、最後は自分。

事例その2 逆瀬台周辺地域での官・民・事業所協働による防災避難

—自分の身は自分自身で守る取り組み—

団体名 : 宝塚第2地区防災会

世帯数 : 5000世帯 (12,000人) ⇒ 2地区の14自治会2管理組合

●この活動に至ったきっかけ

◆地区の事情 : 逆瀬台は、高低差100mの坂のまちで高齢化率も高く45%です。また公的避難所(逆瀬台小学校、県立宝塚高校、県立宝塚西高校)はガケ崩れ危険区域に隣接し山の上にあるため、高齢者や体の不自由な方が避難するのは、大変困難な状況です。

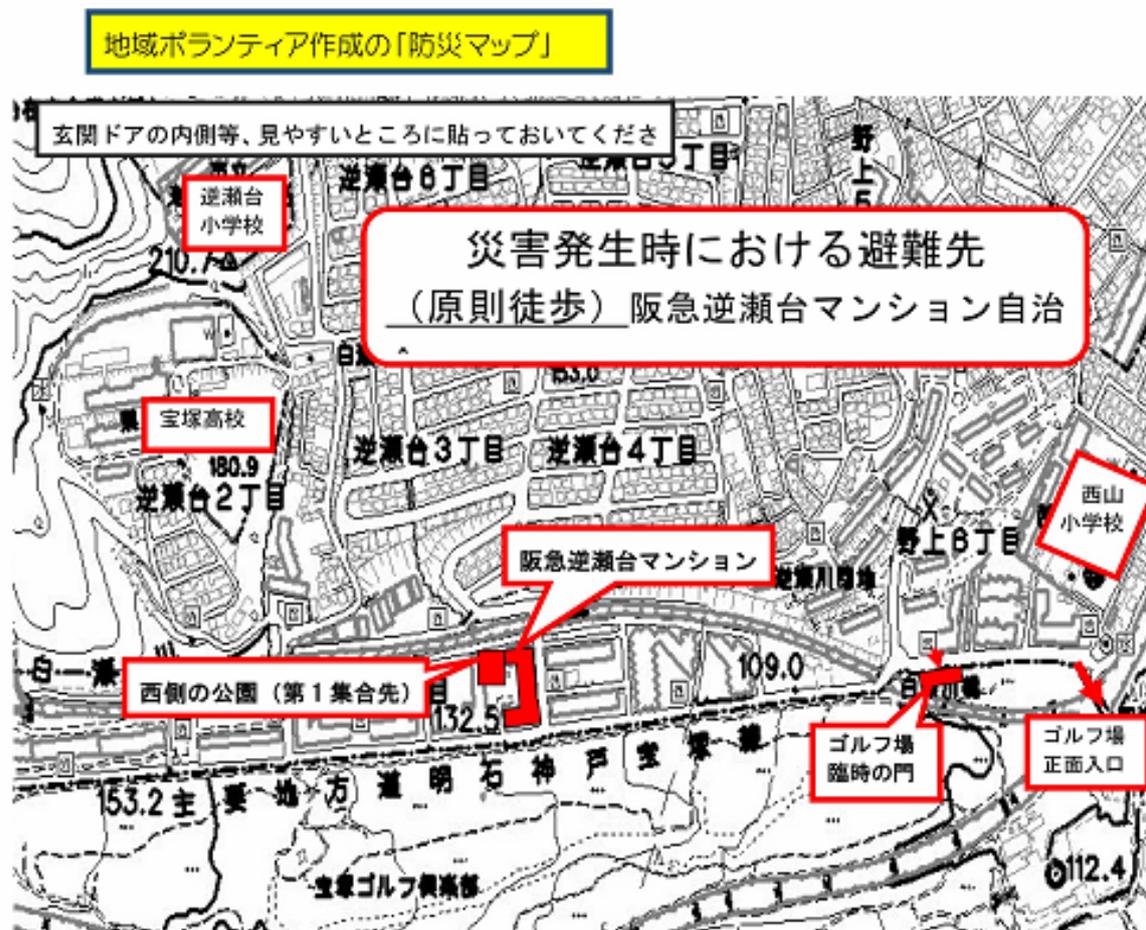
◆背景 : 平成23年3月に発生した東日本大震災を機に、南海トラフ大地震のニュースが増え、宝塚は震度7の揺れが予想されると報じられ、地域住民の不安は増すばかりでした。

◆経緯 : 白瀬川両岸集合住宅協議会(白瀬川沿いの8マンションのコミュニティ)では、平成24~25年に会長を中心に、議論を重ね、「高低差がなく、避難が容易で、広い場所」として、隣接する「宝塚ゴルフ倶楽部」が候補として挙がり避難所として使用させて頂きたく、当時会長を中心に交渉を始めました。現在は「宝塚第2地区防災会」という名で組織化しています。

●活動の内容

◆結論 : 平成26年11月に宝塚市立ち合いのもと、地元と「宝塚ゴルフ倶楽部」との「避難所開設覚書」を締結。覚書内容は震度5以上の震災時にゴルフ場周囲のフェンス出入口の開放と倶楽部ハウスの一部と芝生及び駐車場の開放、ヘリポートの設置。更に、出入口1か所新設です。

◆交渉経過：平成 25 年に「宝塚ゴルフ倶楽部」との交渉を開始、当初は時間がかかり、宝塚市危機管理室とも協働し徐々に具体化。また、その間、ボランティアによる「防災マップ」を作成配付。これらの動きが、ゴルフ場周囲の 2 地区自治会に共感され、14 自治会 2 管理組合が賛同しています。その後、平成 27 年から毎年 11 月に合同避難訓練を実施し、毎年約 250 名の方が参加し、ゴルフ場周囲の数カ所のフェンス出入口を通り、ゴルフ場芝生に避難します。



●参加者の意見など

◆良かったこと

一時避難所としては、周辺自治会から容易に避難でき、広いので安心。また、ヘリポートの設置は、人が搬送や、救援物資の移送に大変便利と好評です。

◆改善したい事

県道を渡る時に、道路の側溝に蓋がないので危険。県に申請し、応急的に道路の端から 70 cm に白線を施工されたが将来的に溝蓋の施工を予定。また芝生でしばらく滞在出来る方法を考え、テント購入等、対策を打つ必要があります。

●今後への課題

毎年の合同避難訓練が災害時の行動基本になるよう継続していきます。

事例その3 地域の災害の歴史を調べ、災害に備える

団体名：良元コミュニティ（良元地区まちづくり協議会）

世帯数：約4,200世帯

●この活動に至ったきっかけ

良元コミュニティ地区は、標高が25mから35m前後の平地が広がっており宝塚市防災マップでも床下浸水が予想される地域にはなっていない。ただし、阪急電鉄今津線沿いの平林寺・宝塚神社や小林駅西側と、塔の町の住宅地の西側は急傾斜地になっており、崖崩れの危険箇所（土砂災害警戒区域）に指定されている。また、この地区は阪神淡路大震災までは、風水害・土砂災害などの大きな災害が起こっていない。また南海トラフ巨大地震などの大災害に対しても、過去の経験から住民の災害に対する意識は比較的低いと思われる。そこで、平成24年度に、良元コミュニティとして安心安全のまちづくり委員会を立ち上げた。他の地域に比べると防災活動は後発だが、むやみに急がず、着実に取り組むことを皆で確認し、それを合言葉に活動を続けている。

●活動の内容

防災活動は、まず地域を知ることから始めた。

宝塚大辞典や市のあゆみなどの図書から地域の災害の歴史を調べて、「災害の記録（宝塚市域・良元地区）」にまとめた。これをきっかけに、平成25年度地域防災講演会で、映像とともに「良元地区の歴史を知ろう」の講話になり、昔の災害の写真も多数展示した。このことから、この地域では地震や津波などの大災害もあるが、浸水や集中豪雨など身近な水害に対する対策が必要ということになった。

次に、地域を知る第2弾として、地域を歩いてまわることにした。地域内の危険箇所の再確認や、防災備蓄箇所、道路幅や歩道の確認をして、良元地区防災マップを作った。さらに、防災マップを見ながら、良元小学校4年生と大人と一緒に地域の防災拠点などを巡る「安全防災ウォークラリー」の企画につながった。

ウォークラリー



小林交番で説明



学校に帰着

災害の記録（宝塚市域・良元地区）

※平成 25 年 8 月 22 日作成・平成 28 年 8 月修正

明治 25 年	1892 年	水害治水 工事	7 月の水害は県下全域におよび、特に六甲山系の被害は著しかった。 この水害を契機として明治 28 年に砂防、山林保護を目的とした治水工事が 県営事業として武庫川流域で始められた。 しかし、明治 29 年以後は、台風や水害が毎年のように宝塚市域を襲った。
30 年	1897 年	水害	9 月 29 日から 30 日の台風による水害で温泉場が流された。
30 年	1897 年	砂防工事	緊急を要する逆瀬川の崩壊斜面への山腹工事を中心に、六甲山系初の兵 庫県の砂防工事が開始された。当初は上流部の山腹工事が主で、大正時 代には中流部付近まで施工された。 昭和 9 年にかけては下流部で玉石積流路工等が施工された。
大正 8 年	1919 年	河川改修	8 月武庫川改修第 1 期工事着手。大正 12 年武庫川改修第 2 期工事継続事 業として認可
14 年	1925 年	地震	5 月 23 日 兵庫県北部を中心とした北但地震が発生。宝塚市域には直接 の被害はなかった。

昭和 2 年	1927 年	地震	3 月 7 日 北丹後地震発生、宝塚市域の震度は 5 の強震を記録した。
10 年	1935 年	豪雨	7 月 5 日 降雨は激しく家屋や田畑が被害を受け、行方不明 2 名の人的被 害を出した。 8 月 10 日 再び豪雨が市域を襲い、阪急今津線仁川～小林間の線路が小 仁川の決壊で流失した。
平成 7 年	1995 年	大震災	1 月 17 日午前 5 時 46 分に、阪神・淡路大震災発生。最大震度 7 の大地震 で、宝塚市内でも死者 118 名、多くの負傷者、建物も全壊、半壊など甚 大な被害を受けた。
9 年	1997 年	土砂崩れ	7 月 13 日 花屋敷つつじが丘で土砂崩れ発生、一家 4 人が犠牲となる。
11 年	1999 年	豪雨	6 月 29 日～30 日 大雨により北部武田尾地区で家屋のほとんどの 11 戸 が床下浸水。南部でも武庫川の護岸が 2 カ所で崩壊、付近住民に避難勧 告を行った。
16 年	2004 年	台風	10 月 20 日 近畿地方を通過した台風 23 号により、家屋の全壊、半壊等 の被害が出た。また武庫川の増水により長寿が丘の「見返り岩」付近の 県道が崩壊した。
26 年	2014 年	豪雨	8 月 10 日 10 時 45 分、台風 11 号に伴い土砂災害の危険性がある地域とし て小林 1 丁目 13 番地区 7 世帯を含む市内 34 地区 610 世帯に、避難準備 情報が出された。指定避難所の良元小学校は 10 日の避難者はゼロであっ た。土砂災害警戒情報が解除され、20 時 10 分避難所は解除した。 その後 8 月 16 日、24 日も激しい豪雨があった。
27 年	2015 年	豪雨	7 月 17 日台風 11 号の接近に伴い小林 1 丁目 13 番地区を含む千種 1.2 丁 目など市内 12 地区 529 世帯に避難準備情報が出された。良元小学校が避 難所にならなかったため 17 時 30 分に小林会館を避難所に開設したが、 22 時 45 分避難所は解除した。

※参考図書（宝塚消防の歩み、宝塚大辞典、市のあゆみなど）から、良元コミュニティが抜粋編集

●参加者の意見など

◆良かったこと

「災害の記録」と「良元地区防災マップ」は、防災・減災取り組み展やくらんど解放文化祭に、活
動報告の写真と一緒に展示して、多くの人に見てもらった。

「災害の記録」は、改めて地域の過去の出来事を知ってもらうことができた。

◆改善したい事

「災害の記録」と「防災マップ」を更新していくこと。

●今後への課題

コミュニティ全体に、子どもから大人まですべての人に地域のことを知ってもらうことを、今後も
継続していくことです。

2. 安否確認—助ける

事例その1 災害時における、体制づくりと活動方法

団体名：小浜自治会 自主防災会

世帯数：250世帯（約700人）

●この活動に至ったきっかけ

当自治会は比較的恵まれた地形に位置し、住民に危機感がありません。しかし、昨今のゲリラ豪雨や巨大台風、そして予知できない地震による住宅への被害は、皆が覚悟を持っておくべきものです。

高齢化と独居の増加に伴い、災害時の安否確認と救助に関しては、活動方法や手段を取りまとめておきたいと思います。

●活動の内容

まず「見守りカード」の作成と登録から始めています。高齢者やひとり暮らしの方へ緊急連絡先、体調、日常生活など、わかりやすい項目を設けたものです。

自治会行事やサロンに参加される方のカード作成は、スムーズにすすみました。

今後このカードの普及と半年から1年をメドに更新してゆく体制を固めたいと思います。さらに安否確認に関し、ご近所はもちろん、自主防災会としての取りくみ方（情報の収集、何人体制で動くかなど）を、班員会議を重ねていきます。

記入日 年 月 日				
小浜自治会「見守りカード」				
町				
ふりがな 氏名	(才) 男女		生年月日	年 月 日
住所	小浜 丁目 -	電話	-	-
緊急連絡先				
ふりがな 氏名	住所		続柄	
連絡先電話 ①		②		
状 況	a	b	c	備 考
①歩 行	健脚	自力	杖 シルバーカー	
②健 康	良 好	投薬のみ	治療中	
③聴 力	聞こえる	音による	聞こえにくい	
④家 事	できる	ある程度 できる	補助が 必要	
⑤ゴミ出し	できる	重いもの だめ	できない	
⑥外 出	ひんぱん	時々	ほとんど 出ない	
⑦近所の 交流	良 好	ふつう	あいさつ のみ	
⑧介護 サービス	受けて いない	受けて いる		
☆「困っていること」「ご近所をお願いしたいこと」 ありますか？				

●参加者の意見など

◆良かったこと

地域の方々にとって、何よりも身近な支えである自治会独自の「見守りカード」は安心できる、自分のことをわかっておいてもらえると、大変喜ばれました。「〇〇さんも作っておいた方がいい」とアドバイスもいただき助かります。

◆改善したい事

ほとんど家から出てこられないひとり暮らしの男性への関わり方がむずかしいです。苦手意識を持たず、あきらめず接触する努力をしていきたいです。

●今後への課題

当自治会は、人のつながりが濃く、皆がご近所のことを気にかけて、よく知っておられるので、共同作業が上手ですが災害時に一番必要な「若い人の力」を得るには、もっと協力体制を確立しておかなければならないと思います。

事例その2 独自の災害時安否確認登録制度を立ち上げ実践する

団体名 : 宝塚宝南自治会

世帯数 : 1,388 世帯

●この活動に至ったきっかけ

平成18年度自治会長就任当初から1,400世帯を超える自治会にも拘わらず自然災害に対する備えが希薄であり対策の必要性を感じていた。平成21年度から“災害時安否確認登録制度”をスタートさせ以後10年に亘り継続している。

●活動の内容

制度の対象者 ・65歳以上で一人住まいの方 ・65歳以上のみの世帯
・体に障害のある方 ・その他、特別な事情で登録を希望される方

平成30年度の“災害時安否確認登録制度”運用実績

- ・約100名の登録者名簿を対象に行政・民生委員にも参加を依頼し、個人情報保護、災害緊急時等の対応について協議した。
- ・台風直撃時には、登録者全員を対象に安否確認、被害状況の確認を実施し大変喜ばれた。
- ・自治会役員・組長が登録者を戸別訪問し非常時に連絡の取れる近親者・隣近所の親しく交流している人の聞き取り調査を行い、個別名簿の作成を手がける。

過去10年の登録実績

H21 (219名)、H22 (192名)、H23 (167名)、H24 (267名)、H25 (262名)、H26 (184名)
H27 (219名)、H28 (155名)、H29 (98名)、H30 (99名)

その他の防災活動

避難訓練の実施 平成30年11月11日(日)

平成30年度の災害時安否確認登録者を中心に広く自治会員に告知し西山コミュニティーと共催のうえ、避難訓練を実施した。各参加者の自宅より西山小学校(指定避難所)までの道筋・所要時間の確認を目的とした訓練。学校長、行政・民生・社協職員も参加し意見交換、避難食の試食。148名の参加があり予想以上の成果があった。

●参加者の意見など

◆良かったこと

- ・ 近隣の方々と一緒に行動、力強い限り
- ・ 避難所までの道筋・時間の確認が出来て良かった
- ・ 市職員・社協・民生・自治会の一体協力があり心強い。

●今後への課題

- ・ 災害時要援護者支援制度の実行
- ・ 災害時安否確認実施後の対応・自治会だけでは対応が困難
- ・ 更なる防災に対する住民意識の向上

災害時安否確認制度

～あなたは災害時に避難することができますか？～

宝南自治会では、地域の皆さまを地域で災害から守るための支援に取り組みます。

制度の概要

地域の方々の安全が脅かされる大きな災害が起こった時に、登録をしてくださった方の安否を確認する制度です。

対象者

- ① 65歳以上で一人住まいの方
- ② 65歳以上のみの世帯
- ③ 体に障害のある方
- ④ その他、特別な事情で登録を希望される方

登録方法

下記の留意事項をご理解いただき、登録を希望される方は、添付の申込用紙に必要事項をご記入ください。

留意事項

* 安否確認方法

- 1、水害・家屋倒壊・火災等が起こり、自治会長が安否確認を必要と決断した場合、宝会館に災害対策本部を設置する。
- 2、動ける役員が確保でき次第、電話連絡にて安否を確認する。
- 3、電話が通じない場合は、自宅へ行き安否を確認する。
- 4、必要に応じて警察や消防へ連絡を入れる。

* 断り事項

- 1、阪神淡路大震災クラスの大地震が起こり、地域が壊滅的な被害を受け、自治会の役員も生命の危険にさらされている場合、安否確認ができない場合があります。
- 2、この制度は、安否確認のみであり、人命救助までできないことをご理解ください。必要に応じて警察・消防に連絡をします。
- 3、申込者の名簿は、原本を自治会長が、写しを安全委員会委員長が保管し、この制度以外には使用いたしません。

要 返 送

安否確認登録者のみなさま

平成30年3月1日

宝南自治会
会長 竹谷 泰二

<アンケートのお願い>

平素は、自治会活動にご理解ご協力を賜りましてありがとうございます。
この度は、「安否確認制度」にご登録をいただきましてありがとうございます。
宝南自治会では今後災害時に避難する際、ご近所の力を借り皆が無事避難所へ移動できることを目標に取り組みでいこうと思っております。
以下の質問の当てはまる項目に○をつけていただき、4月末までに同封の封筒に入れポストに投函をお願いいたします。登録者それぞれ1枚ご記入ください。

- ① 避難指示や避難勧告などが発令されたとき、
() 足腰が悪く自力で避難所まで避難できません。
() 自力で避難所まで避難できます。
() その他()
- ② 避難が必要な時に、ご近所で手助けしてくれる方はいますか？
います() お名前(複数可)()
いません()
- ③ 今後ご近所などと避難方法を考えたいと思いますが参加しますか？
します() しません()
- ④ 福祉電話について…以前に申し込んだ方は必要ございません。

- () 福祉電話に申し込みます
() 福祉電話に申し込みません

<福祉電話とは？>

日常生活の中で声かけを希望される方に関し、民生児童委員会のサービスの1つにあります「福祉電話」で対応させていただいております。定期的に安否確認や困っていることがないかなどの電話が入る制度です。

お名前 _____ ご住所 _____

お電話 _____

事例その3 緊急時支援チームの立ち上げ

団体名 : 福井・亀井町自治会

世帯数 : 800世帯

●この活動に至ったきっかけ

集中豪雨による大規模災害が毎年全国で発生し、尊い人命が奪われている。また、大地震の発生も危惧されていることから、自治会として大規模発生時、または、その危険が迫ってきた時に、自力で避難することが困難な高齢者や障害を持つ方々に対する避難支援について、きちんとした対策をたてる必要性が急がれるため。

●活動の内容

福井町は光明まち協としての取り組みの中で、“災害時一人も見逃さない”を合言葉に、特に自力での避難が困難な方に対する避難支援体制づくりを平成22年にスタート、亀井町も2年遅れの平成24年にスタートした。

体制づくりにあたっては、民生委員・民生協力委員・老人クラブ代表・自治会担当役員が主体となって、まず、災害時の要援護者及び支援者の把握をどのようにやるかの具体策を決め、会員・非会員の区別なく全所帯に対し、手上げ方式で調査を行なった。

調査結果に基づき、手をあげられた要援護者（当初、福井町100名、亀井町31名）と支援者のペアリングを地域担当の民生委員と自治会役員が双方に面談して決定し登録台帳を作成、以後1~2年の間隔で再調査を実施し、見直しを行なっている。

●参加者の意見など

◆良かったこと

高齢者世帯や一人住まいの高齢者からは、避難の支援をしてもらえると非常に心強い、と喜んでもらえた。

◆改善したい事

平素から、民生委員・老人会とも連携を緊密にして、支援が必要な人の把握に努める。

要援護者・支援者に防災訓練への積極的な参加を促し、防災意識の向上を図る。

●今後への課題

高齢者世帯が増加傾向にあるため、できるだけ多くの方に支援協力を呼びかけ、支援者として登録し、支援体制を整備していく必要がある。

緊急避難に関する調査票等

福井町、小浜市4丁目の皆様へ

2012年(平成24年)10月

光明地域まちづくり協議会安全マップ
福井地区防災担当 (福井町・亀井町) 田村 俊雄 TEL 73-2241

災害発生時や緊急時の要支援者の支援について(お願い)

大前、地震、雷、竜巻、暴風、…最近の自然災害は、今までの予測をはるかに超えています。特に、福井県では武蔵川が集中豪雨で氾濫したことを受けて、それを念及する必要があります。災害発生時に避難所へ自力で避難困難な人や、消防車・救急車・トカー等の緊急車両を呼ぶ必要があるときに、誰かの手助けしてもらえないと困る人、ひとり住みの高齢者や身体に障がいのある人は大勢です。昨年、災害等が起きてもみんなで助けあって避難できるような地域にしていきたいと考え、支援を希望する人(要支援者)は、手助けしていただき、自治会の幹事さんや本部役員、民生児童委員、そして近隣のの方が支えるという仕組みがスタートしました。具体的には、要支援者と支援できる人の連絡先を明記した「緊急連絡表」を作成し互いに助け合えるようにしています。

※ 下記項目を年1回の更新をお願いします。

- ① 「緊急連絡表」をお配りしている関係者の方
今年度の改訂版を送付します。
氏名等が間違っている場合は、本部役員までお知らせください。
- ② 昨年、要支援者登録シートを提出したけれど、今後1年間を見て
「なんとか自力で避難できる」
「ちょっと不安はあるが今年は大丈夫」…といったことで支援を一時取り下げたが、
その後、体調がすぐれないという方
改めて「緊急連絡表」を作りますので、本部役員までお知らせください。
- ③ 新たに要支援者登録を希望する方
下記の安全福祉マップ(見守りマップ)要支援者登録シートを本部役員まで提出してください。

No. ()

安全福祉マップ(見守りマップ)要支援者登録シート

地域名	福井町	小浜市	4丁目	○(西)区	記入日	年	月	日
世帯主								
世帯人数	人							
住所	余 塚 町							
電話番号	0797 ()							
緊急時連絡先(氏名)	(住所)	(電話番号)						

※下記については、支援の必要な人をご記入ください。
(支援の必要な人は、65歳以上の一人暮らし高齢者、高齢者のみ世帯、知的・精神・身体・障害・後援等に該当する人、乳幼児です。)

氏名	性別	学年	支援が必要な内容・状態	介護員や福祉等専任ケアマネジャーが職員名

緊急避難に関する調査表

該当する□にレを記入してください。例(□)

① 災害時の避難に支援が必要な方(手助けしてほしい方)

支援を希望します。(□ご本人・□ご家族)

お名前 _____ 住所 亀井町 _____ お電話 _____

今のところ支援の必要はありません。

お名前 _____ 住所 亀井町 _____ お電話 _____

② 災害時の支援に協力いただける方

できるだけ支援に協力したいと思っています。

お名前 _____ 住所 亀井町 _____ お電話 _____

※ご協力ありがとうございました。

_____きりと線_____

この調査表は、11月17日(土)までに、
自治会担当幹事 住所 亀井町 _____ 氏名 _____ まで
郵便の封筒に入れてご提出(ポスト投函)くださいますようお願いいたします。

なお、外出がご不自由な方やご質問等ございましたら、担当民生児童委員

氏名	住所	担当地区	電話番号

までお電話ください。(誰にお電話していただいてもかまいません)

(注) 調査結果の内容等「個人情報」の取り扱いには十分注意を払い、地域での助け合い活動・支援活動に対する信頼と理解を得られるよう努めます。

福井町にお住いの皆様へ

平成24年10月26日

福井・亀井自治会
[福井町緊急時支援チーム]

緊急避難に関する調査のお願い

平素は、自治会の活動にご協力頂きありがとうございます。

さて、集中豪雨、竜巻など異常気象による大規模災害が各地で発生しており、当地でも、集中豪雨による武蔵川の氾濫、堤防の決壊などの水害が一番心配されるところで、自治会として地震や豪雨などの大規模災害発生時に、自力による避難が困難な高齢者や障がいを持つ方々に対する避難支援をどのようにすればいいのでしょうか。当から「遠く避難より近くの他人」と言われますように「地域・近所の助け合い」が一番頼りになります。

そこで、「災害時一人も見逃さない」を合言葉に、避難対策の一環として

① 「災害時に支援が必要な方(手助けしてほしい方)」
② 「災害時の支援に協力いただける方(手助けをされる方)」

を把握するため、福井町にお住いの全世帯を対象に別紙のとおり調査をすることにいたしました。ご協力よろしくお願いたします。

なお、「支援を希望」または「支援に協力」のご回答をいただいた方には後日、自治会役員または民生児童委員が訪問し必要な聞き取りを行わせていただきますのでよろしくお願いたします。

※ 8月18日、福井町における災害等緊急時の避難支援対策を効果的に実施するため、福井・亀井町自治会、民生児童委員、亀井町アソビ会及び福井町となり「福井町緊急時支援チーム」を立ち上げました。

光明まち協としての「福祉安全マップ」に関する取り組みについて

光明地域まちづくり協議会会長、副会長、福井町自治会副会長 田村 俊雄

2010年(22)、災害時や緊急時(消防車・救急車・パトカーを呼ぶとき)に支援を要する人に連絡を呼びかけました。併せて要支援者を助ける人(支援者)も募集しました。2,200世帯のうち要支援者383名、支援者484名でした。

もともと、まち協本部が立ち上げた「福祉なんでも相談窓口」に寄せられた「地域内に知りあいの高齢者・障害のある人、認知症の人が増えている」ということから出発したもので、緊急時のほか災害時でも支援の必要の人が分かる福祉安全マップを作成することに発展したのです。近い将来必ず発生するであろう南海トラフ地震や、今まで経験した事のない豪雨に備える避難訓練に欠かせないものといえます。

登録手順のことですが、まち協・自治会・民生児童委員・社協が手分けして戸別訪問して登録シートを配布、回収にありました。要支援者は、支援を要する具体的な内容、緊急連絡先を登録シートに記載します。支援者は、支援できる資格や特技を登録シートに記載します。これら個人情報、まち協及び自治会で管理し、災害時や緊急時の避難訓練、災害避難に活用して助け合う事は勿論、日常生活での見守りにも生かされるものです。要支援者と支援者を住宅地図上に落していけば福祉安全マップの出来上がりです。

次に、まち協2,200世帯の内700世帯の福井町での取り組みについて触れてみます。

登録を希望された要支援者200名に再度訪問して個別に身体状況をお聞きしましたところ、高齢者が歩いて避難所へ行ける人、息子夫婦と同居している人、独り暮らしだから要支援者登録したがまだ元気だから支援者登録もしたい人等、「今のところ支援の必要なし」と、要支援を取り下げられたため実施は100名を切りました。その後、自治会、民生委員、支援者を一覧にした「緊急連絡表」を作成して、いざという時に備えるようにしています。2017年5月現在の要支援者は32名です。

支援者については、黒髪、働いている高齢者で災害が発生すれば、地元で支援をすることはできません。災害発生時連絡が明確に分かることとなります。要支援者にとっても支援者にとっても、登録しているから安心とは言い難いでしょう。ただ、何も知らなかった、誰か困っているから分らなかった状態から、一歩ずつ踏み出せたことは素晴らしいです。

<参考> (2017年5月現在)

福井町人口1,542人 742世帯
65歳以上人口658人(高齢率42.6%)
自治会加入世帯436世帯(加入率59%)

記：〇近隣自治会とのノウハウの共有

隣接する「末成町自治会」では、福井・亀井町自治会における「災害時要援護者」の把握と支援者の募集に関する様式等を共有し、両者のマッチングを実践されています。

事例その4 災害時安否確認訓練

団体名 : 中山台自治会自主防災会

世帯数 : 620世帯

●この活動に至ったきっかけ

当地域は立地的に指定避難所に行くには坂を上らねばならず、高齢者が多いことにより自宅避難を希望する世帯がほとんどであった。自宅が倒壊しない限り、津波や水害など緊急避難を要する事態も想定しにくいことから、自宅避難を基本と考え、いち早く発災時に何世帯、何人が地域内にいるか、倒壊家屋や高齢者の安否はどうかなど、近隣住民で情報収集、情報伝達、救助などが行えるような訓練が必要と考え、実施するに至った。

●活動の内容

「ストラップ名札を持って、集合場所へ！

全世帯に、家族名(生れ年も記載)全員の記載されているストラップ名札(クリップ鉛筆つき)をあらかじめ配布しており、それを使用して安否確認をする。丁目毎に4~6の集合場所を割り当て、2~3のブロックが名札を持ってその場所に集まる(集まりながらも、その途中の被害状況にも目を配る)。集まった者で持参した名札を基に、集合場所にきていない世帯を割出し、その世帯に手分けして安否確認に向かう。(チラシをポスティングすることで、安否確認に向かったこととする) 集合場所に来ることができない要援護者に対しては、事前に聞き取っている安否確認方法で、要援護者世帯のブロック幹事(現・次年度幹事)が2名で訪問し、安否を確認する。集められたストラップ名札は現・次年度幹事が丁目毎に指定された本部に持参し、各本部で避難者の人数把握をする。

●参加者の意見など

◆良かったこと

- ・短い時間で終わるので参加がしやすい。
- ・ブロックごとに集まるので、見知った間柄で良かった。
- ・1年間幹事をやった最後の3月実施で、自分のブロックの事がよくわかっているのが良かった。

◆改善したい事

- ・短い時間で終わるので、ついうっかり出遅れると、もう終わっていた。
 - 予定された集合時間の前に、車にて呼びかけアナウンスをして回った。
- ・自治会のことは、妻(親)に任せているので、自分のブロック名や集合場所がわからない。
 - 家族で把握してもらえよう、訓練の案内に書き添えた。

●今後への課題

実際に倒壊家屋や負傷者が出た場合に近隣住民に救助協力要請などをし、救助態勢を整えることができる複数の人材育成が必要。

高齢者を除き、誰もがその役目を担えるような意識付けと、ある程度の訓練は必要かと考える。さらに、指定避難所との連絡体制を整え、物資の支給要請などに備えたい。

現在、コミュニティ内の自治会自主防災会と協力して連絡会を結成し、住民目線の自主防災会間の情報交換、連携体制の構築に向けて、取り組みを進めている。



ストラップ名札

表面

(赤字の部分を各自記入しておく)

2-0-0 宝(4人家族)

- 塚男 (s38・5)
- 塚子 (s45・8)
- すみれ (H10・8)
- はなこ (H15・6)
- (・)

(今、いる人に ✓ をつけてください)

裏面

緊急連絡事項

(例)

- 人工透析を受けている
- 携帯酸素を使用している
- 出産をひかえている
- 等々

安否確認訓練



集合確認



戸別訪問

3. 避難誘導—逃げる

事例その1 水害時の一時避難所協定書の締結 全災害に対応する避難所協定の締結

団体名 : まちづくり協議会コミュニティ末広
伊子志自治会 逆瀬川自治会
世帯数 : 2,800世帯

●この活動に至ったきっかけ

コミュニティ末広地区には、兵庫県が作成した防災マップに100年確率で発生する武庫川の洪水によって武庫川堤防から溢水して0.5m未満の床下浸水が予想される区域が明記されています。その区域は、末広地区の東部全域にわたり、宝塚市役所や指定避難所である末広小学校も含まれています。

このため、豪雨による洪水で浸水が予想される時、あるいは浸水が起きたとき避難所に避難する場合は、避難経路に御所下水路やその支線などがあり、下水路自体が満水状態でその位置を判別できず、特に夜間に避難するときは水路にはまり流される危険性極めて高い状況となります。

(注：平成30年度から末広小学校は水害災害の避難所としては指定されていません)

●活動の内容

指定避難所へいたる避難路が極めて危険な状況となるため、0.5m未満の床下浸水が予想される区域やその近傍にある民間のマンション4棟と個々に「水害時の一時避難所協定書」を締結いたしました。

協定内容の要点は、概略下記の通りです。

- ①マンション周辺の住民に
- ②水害が発生または発生する恐れがあるときから安全を確認した時点で避難所として使用させていただく
- ③ 避難住民が避難した際に発生した事故については、すべて個人の責任とする。

●参加者の意見など

◆良かったこと

避難実績はいままでありません。

平成30年度にコミュニティ末広から協定延長の確認を行い、4棟マンションから同意を得られました。

●今後への課題

課題は、各一時避難所の受け入れ側の詳細な対応の仕方について、合意を得ておくこと。また、受け入れ側と避難をする側の共通の情報を共有しておくことが必要です。

4棟の一時避難所は、伊子志地区に限られています。末広小学校が水害の対象避難所から外れたので、逆瀬川地区での一時避難所開設が望まれています。

平成30年度には、全災害に対応する避難所協定を有料老人ホームと伊子志自治会・逆瀬川自治会との間で締結しました。

宝塚 23 万人の防災キャンプと総合防災訓練



飲み水の配給



停電中



段ボールルーム



ペット同行避難についての講習

水害時一時避難所も記載された防災マップ



事例その2 タイムラインを活用した避難誘導體制の構築

団体名：高司小学校区まちづくり協議会
世帯数：3,000世帯

●この活動に至ったきっかけ

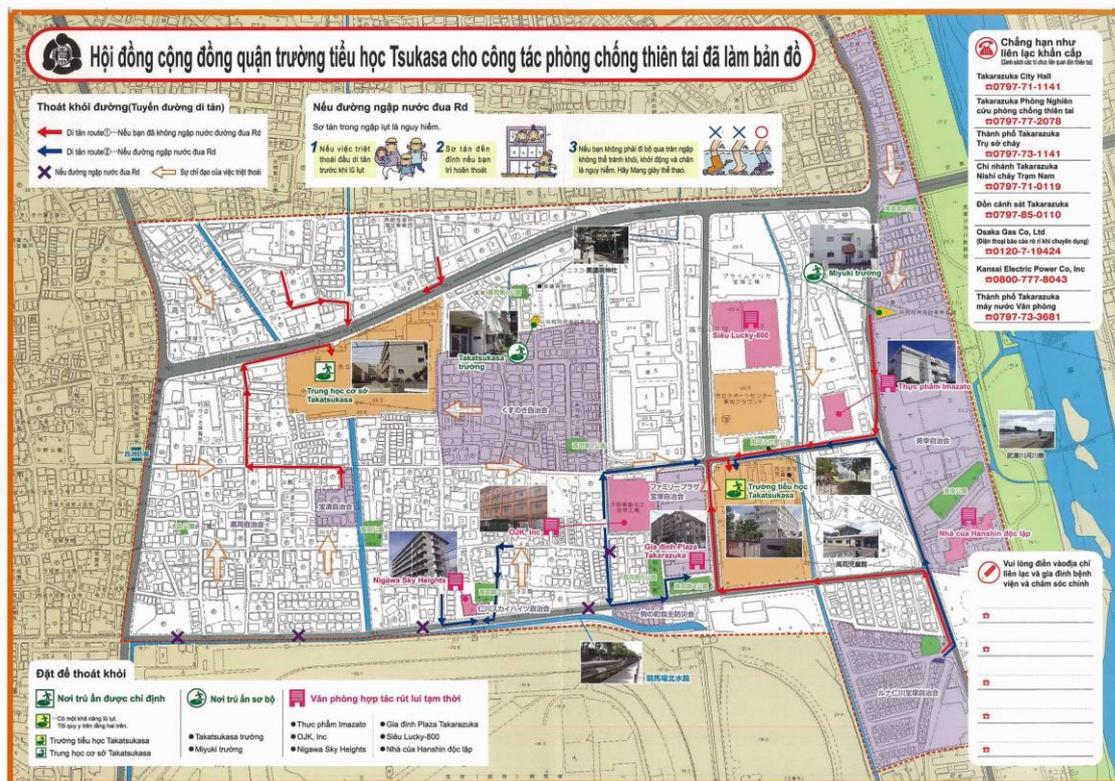
当校区は、宝塚市の東南部に位置する低位地帯であり、なべ底の地形です。従って、台風やゲリラ豪雨時には、ここ数年の間に2度の浸水災害を受けました。人的被害はなかったものの、3,000世帯（7,000名）への避難情報の伝達、及び誘導方法を早急に改善する必要が生じました。

●活動の内容

当校区は「高小避難連絡会」なる連絡網を組織しております。その構成は8自主防災会、小中学校、高司児童館、NPO法人とともに生きる宝塚、民間企業2社、であり、隔月に連絡会議を開催し活動の検討を行なっています。

平成29年度より、重点活動として、タイムラインを活用した避難情報の伝達と避難誘導（要援護者優先）について、各自主防災会ごとに講習を実施し、手法作成する活動を進めています。さらに、まち協防災部は、8自主防災会のコントローラーとして行政との連携の精度向上に努めています。

ベトナム語表記の防災マップ



●参加者の意見など

◆良かったこと

各自主防災会が継続して活動することにより、その地区の正確な要援護者情報を入手することができ、支援組織との連携が強化できました。その結果として、タイムリーな避難誘導につながり、減災への効果が期待できます。

◆改善したい事

8 自主防災会に属さない地域が当校区内において、30%以上あり、これらの地区への防災情報の伝達方法が確立していないこと。

●今後への課題

まちづくり協議会のポジションが条例で確立していないので、地区居住者のまちづくり協議会への認知度が低く、活動に支障が生じています。行政は、早急に条例を制定し、まちづくり協議会（防災部）の位置づけを全居住者に広報してもらいたい。

4. 避難所—生活する

事例その1 防災訓練（避難所開設訓練）平成31年2月24日（日）

団体名：光明地域まちづくり協議会

世帯数：2,400世帯

●この活動に至ったきっかけ

阪神・淡路大震災時、光明小学校体育館に多くの人が避難し、秩序もなく大混乱していたことを知る人も少なくなってきた。今後発生するであろう大震災等の災害対応を目的として発災直後の避難所開設をよりスムーズに行うため訓練を重ねて実施している。

●活動の内容

訓練を重ねることにより、実際に即した訓練になるように重点取り組みを決める。

28年度 簡易トイレ 段ボールベッド 心肺蘇生 応急措置などの体験訓練

29年度 小学生の防災意識の向上を目的に、救命救急応急措置 アルファー化米など

30年度 総務 救護 物資 衛生班別に役割確認と話し合いを実施（発災後3日間）

参加自主防災会 福井亀井自主防災会

- ・光明町自主防災会
- ・県営小林自主防災会
- ・宝塚光明住宅管理組合自主防災会
- ・福井鉄筋住宅自主防災会
- ・地域住民61名（小学生12名 まち協14名 社協 総合防災課 西消防署）

訓練の内容

- ①安否確認、避難誘導
- ②体育館の安全確認・受付
- ③地区毎のスペースへ誘導（外国人対応放送）

④各居住区ごとにブルーシート張り、段ボールベッドの組み立て

⑤役割班毎の話し合い

注：受付では避難者家族票を配布（家族の内容と人数把握）

福祉スペース（要支援者の内、特にケアの必要な人）

女性専用スペース（更衣 授乳 乳幼児対応）

避難者家族票

避難所施設名：宝塚市立光明小学校

* 受付が集中した時は、太線枠内を記入する。その他は後で記入・確認する。

世帯代表者	住所		〒 ー ー /宝塚市	
	電話) ー ー /携帯:	
避難所入所年月日	年 月 日 ()	<家屋の被災状況> 全壊・半壊・一部損壊		
	午前・午後 時 分	断水・停電・ガス停止・電話不通		
		<その他の状況> ()		
	フリガナ おなまえ	年齢	性別	児童生徒 学校名・ 学年等
				要支援者 (下欄の 記号で)
				今すぐに生活に必要なもの (紙おむつ・粉ミルク・薬等)
1	代表者		男・女	
2			男・女	
3			男・女	
4			男・女	
5			男・女	
6			男・女	
<親族などの連絡先>		<要支援者の内訳>		
住所		ア)乳児 イ)幼児 ウ)妊産婦の方		
おなまえ		エ)65歳以上の高齢者		
電話() ー ー /携帯		オ)要介護者		
		カ)身体障がい者		
		キ)日本語がわかりにくい方(外国人)		
例:要介護、要手話・要通訳など				
その他の事項				
安否の問い合わせがあったときに、こたえてよろしいか		はい いいえ		
退出年月日	年 月 日 () 午前・午後 時 分			
退出後の 連絡先等	住所			
	電話等			
連絡先の問い合わせがあったときに、こたえてよろしいか		はい いいえ		

●参加者の意見など

◆良かったこと

各班活動を参加者全員で実施したことにより避難者各人が役割認識を共有でき、自主的な盛りあがりのなかで運営訓練を実施することが出来た。

◆改善したい事

参加者に高齢者が多く、若い人の参加を呼びかけたい。

広報のあり方を再検討したい。

●今後への課題

避難所運営訓練の目的を明確にして、全ての人にとって安心して過ごせる避難所の運営に近づくことが出来るよう努力していきたい。

事例その2 文化・言語・国籍・年齢や性別・障がいなどを問わずすべての人に優しい ユニバーサルな避難所運営を目指す

団体名：宝塚市末成小学校地域まちづくり協議会（コミュニティすえなり）

世帯数：3,600世帯

●この活動に至ったきっかけ

大規模災害で被害を受けた人は暫くの間避難所での避難生活を余儀なくされる。避難所の運営方法を予め決めておくことで、大規模災害発生時に避難生活を余儀なくされた人がスムーズにより早く避難生活を送ることができるようになる。コミュニティすえなりは、2013年、行政・施設管理・地域の関係者で避難所運営委員会を設立し「避難所運営マニュアル」を作成した。本マニュアルを検証するため、避難所運営の訓練を実施している。

●活動の内容

- 第1回 2014. 10. 19 避難所の安全点検、避難者の受付と名簿の作成、避難所の区割り、防災グッズの紹介。
- 第2回 2015. 10. 25 避難所運営委員の点呼と役割分担、参加者に避難所の運営方法を説明。
- 第3回 2016. 09. 04 参加者によるブルーシート張り、居住地域毎に代表・副代表・活動班員を選出、班員が各活動班の役割・活動内容を把握、参加者による校内の開放スペースを把握（校内ツアー）、段ボールベッドの組立、非常用トイレの使用法説明、和式トイレ用便座の組立。
- 第4回 2018. 03. 18 女子更衣室・授乳室用の屋内型避難テントの組立、要援護者トリアージの説明、車椅子で要援護者の移送、子どもによる防災用井戸水の汲み上げとバケツでのトイレへの搬送、子ども向け防災クイズ、アルファ化米の配給、非常用ホイッスル・保温ポンチョの配付。
- 第5回 2018. 10. 28 参加者に音声・文字による案内。女性に参加を呼びかけ避難所運営委員会を開催、避難所運営ルール作成、ホワイトボードに避難者数を明記し情報の共有、段ボールベッドの組立、間仕切りセットの組立、非常用持出袋の配付。

避難所運営訓練



掲示パネルによる案内の可視化



車椅子による避難者



女性参加による運営委員会の立上げ



子ども参加の防災ゲーム

●参加者の意見など

◆良かったこと

毎回の訓練で避難所の開設と運営の基本的なことを繰り返すことで、参加者に避難所において何をすべきかが理解された。これにより、参加者の中で避難所の自主運営の意識が高まった。また、参加者からの意見を聴くことで、避難所運営において何に配慮すべきかが理解できた。

◆改善したい事

毎年、訓練を実施しているが、訓練に無関心な人がいる。地域の一人でも多くの人が参加してもらえるように工夫して訓練への参加を呼び掛ける必要がある。

●今後への課題

避難所の運営は、災害発生時の避難所開設から避難者が居なくなる避難所閉鎖までに及ぶ。現在の訓練では、避難所開設の初期だけしか体験できていない。避難所の運営期間全体を体験できる訓練計画の立案が必要である。また、避難所の運営に必要な資器材が不足しているので優先順位をつけて揃えていく必要がある。

事例その3 避難及び避難所開設訓練

団体名 : 宝塚第一小学校区まちづくり協議会

世帯数 : 約 8,800 世帯

●この活動に至ったきっかけ

当地区は六甲山東端の山麓部から武庫川に囲まれた緩い傾斜地に一般家屋が多く、高齢化率の高い地区で、山麓部に近い地域では土砂災害警戒危険区域に、武庫川に面した地域では浸水予想区域に指定されている。また 校区内の指定避難所は宝塚市第一小学校のみ、要援護者数は約 470 人で災害発生時の対応を定めておく必要がある。

●活動の内容

訓練時の災害想定：昨夜からの武庫川上流の豪雨により中州地区近辺に浸水被害の可能性があり、午前9時過ぎに「避難準備、高齢者等避難開始」「避難勧告」が発令された。

参加者：中州地区近辺の要援護者12名、ろうあ者8名、中途難聴者4名を含む避難者数106名、市、各種団体の参加者を含めた参加者総数は135名。

訓練内容：9時過ぎから中州地区の有志高齢者等要援護者の避難移動を車椅子等で開始、順次一般住民有志の避難を開始し、避難経路、避難時間を確認した。9時15分過ぎから学校体育館で避難所を開設、受け入れを開始した。10時過ぎ移動完了後、各地区ブロック毎及び要援護者の避難体験報告や段ボールベッドの組立訓練、非常食の試食体験を行い、12時15分頃に訓練を終了した。

車椅子避難



更衣室組立



段ボールベッド組立



健康体操



●参加者の意見など

◆良かったこと

一通り経験できたのが何よりも良かった。イメージができた。要援護者の方と避難経路を歩けた。一緒に訓練をして地域の方との交流ができた。体育館内の備品の保管場所がわかった。簡易ベッドや簡易テントの組立方法を体験できた。もっと多くの住民が知った方が良い。

◆改善したい事

目耳の不自由な人への配慮がもっと必要。前もって文書化が必要。表示物の文字はもっと大きくした方がいい。訓練全体がちょっと忙しすぎた。

● 今後への課題

長寿ガ丘地区からは避難所はやはり遠いので途中に一時避難所的なものが必要。避難所の近くを流れる支多々川の状況によっては 避難ルートを変える必要があり、いろいろな状況を想定した避難ルートづくりが必要。一小の避難所は車椅子対応が十分でない。また 夏冬の空調管理が不十分。夏の虫対策も必要。

事例その4 第8回大規模避難訓練

団体名 : 中山台コミュニティ災害対策委員会

世帯数 : 6,000 世帯

● この活動に至ったきっかけ

中山台コミュニティ地区は昭和40年代後半から50年代にかけて山間部を切り開き開発 造成され、現在人口約1万4千人、6千世帯が暮らす地域である。高齢化率は市平均よりも10ポイント高く少子高齢化が進んでいる。大規模災害が発生しライフラインが止まり、孤立した状況下でも地域が一体となって、発災から1週間は「自分たちで生き延びる」ことを目標に2016年11月に地区防災計画を定め大規模避難訓練を続けている。

● 活動の内容

震度6強の巨大地震が発生したと想定し、地区本部を立ち上げ宝塚市災害対策本部の指示のもと4か所の指定避難所、福祉避難所を開設し避難住民を受け入れる訓練をしている。訓練内容としては、避難者受付訓練、トランシーバーを使用した情報伝達訓練、要配慮者を福祉避難所に搬送する避難者トリアージ、段ボールベッド組み立て訓練、防災用品の展示、市消防によるロープワーク訓練、シェイクアウト訓練、コープこうべ中山台店による備蓄品の紹介、炊き出しなどの訓練を実施している。

2019年度は避難所での生活が長期にわたることを想定し快適な生活環境をめざし、地区ごとの居住スペースの確保、プライバシー保護のための間仕切りの設置、簡易トイレの設置ほか避難所運営のためのルールづくりにも取り組みました。参加者は481名。

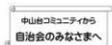
● 参加者の意見など

訓練を続けていく中で、訓練自体に慣れてしまい毎年続けて参加される人が少ない。また参加者は高齢者が中心で、いざという時に援助者となるような若い世代の参加者が少ない。しかしながら初めて参加された方は4割あり、参加された9割近い方は来年度も続けていくべきであると回答されている。子育て世代に関心がある参加しやすいような訓練メニューも考える必要がある。

● 今後への課題

いつか起きるであろう大規模災害に備えて地道に訓練を続けていくことで、地域住民の防災意識を高め、自助共助の地域づくりに努めていきたい。

防災意識調査アンケート 回答



2018年12月実施

中山五月台中学校区の皆様へ ～アンケート調査にご協力をお願い～

中山台コミュニティ災害対策委員会
災害時、被害を最小限にするためには、一人ひとりの備えと同時に、このまちに関わる者同士が連携をして助け合うことが必要です。平成23年2月に立ち上がった災害対策委員会では、自治会などの住民団体が中心となって、学校や事業所とこのまちの防災を考えてまいりました。そして、この地区の防災減災の取り組みをまとめて、地区防災計画として宝塚市に提案し、宝塚市防災会議で承認されました。その計画で、この地域全域での取組みと位置付けた大規模避難訓練は今年で8回を迎えます。委員会では、その成果を確認する為のアンケート調査を実施することといたしました。

この地域の4つの指定避難所（桜台小・五月台小・五月台中・東高）は、災害によって開設される所がわかります。開設された避難所は、避難をしてきたら、地域外の人でも、誰でも受け入れられなければなりません。こうしたことを地域の皆様にお伝えすることができていますでしょうか。委員会を立ち上げた7年前の防災意識と現在の防災意識はどのように変化しているのか、この度の調査結果を比較検討し、今後の訓練計画に反映させたいと考えます。ご理解とご協力をよろしくお願いたします。

総配布数 5400 回答数 1456 回収率 27%

<配布&回収方法>
13自治会及び1管理組合を通じて全戸へ配布し、回収
コープ及び中山台コミュニティセンターにアンケート用紙を設置し、
回収ボックスを設置して回収 地域イベントに出店して調査実施

このアンケートを答える方の基礎情報として該当するものに○をおつけ下さい。

<性別> ①男性 490 ②女性 899 未回答 67

<年代>

20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	未回答
7	40	122	180	320	729	58

<家族構成人数> ① 1人 238 ② 2人 708 ③ 3人以上 450
未回答 60

- 中山台コミュニティセンターの北側駐車場には、飲料水兼用耐震性貯水槽（1万人に1日最低限必要といわれる3リットルの水を3日間供給できる分の飲み水を貯水）が設置されていますがご存知ですか？
① 知っている 585 ③ 知らなかった 852 未回答 19
- 感震ブレーカー（大きな揺れを感じた時に電源を自動で落とし電気による火災を防ぐ機器）を設置していますか？
① している 244 ② していない 651 ③ 感震ブレーカーを知らない 523 未回答 58
- 住宅の耐震化をしていますか？
① している 491 ② していない 702 ③ どうすればよいかわからない 147 未回答 119
- ご自宅の家具の転倒防止をしていますか？
① している 533 ② していない 868 ③ やり方がわからない 17 未回答 24
- 住宅の保険はどんなものに入っていますか？
① 火災保険 598 ② 火災保険と地震保険 593 ③ 共済 161 ④ 何も入っていない 139 未回答 31
- 何で災害情報を得ていますか？（複数回答可）
① ラジオ 616 ② 宝塚市の安心メール 572 ③ テレビ 1252 ④ ライン 280 ⑤ Facebook 26 ⑥ パソコン 286 ⑦ 無線 3 ⑧ その他 87 未回答 15
- 災害発生時、あなたと家族の安全確認の後、あなたができる活動はどれですか？（複数回答可）
① ご近所への声かけ（安否確認） 1100 ② 避難誘導 291 ③ 救援活動 245 ④ 避難所内活動 478 ⑤ したくてもできない 140 ⑥ その他 30 未回答 70



以下の設問の該当するものに○をつけてお答えください。

- 災害発生時の対策について家族で話し合っていますか？
① はい 785 ② いいえ 629 未回答 42
- 緊急時の連絡方法や集合場所を家族で決めていますか？
① はい 695 ② いいえ 715 未回答 46
- ご近所の人と災害発生時のことを話し合ったことはありますか？
① 話し合ったことがある 425 ② 今後話し合いたい 664 ③ 話し合う予定はない 338 未回答 31
- 大規模な災害が起きた場合、避難所の運営は誰がするのかご存じですか？
① 避難者 231 ② 地域住民 624 ③ 行政 539 ④ 施設管理者 81 未回答 158
- 避難勧告が発令された場合、自力で（自分や家族の運転する車も含む）避難することができますか？
① できる 1304 ② できない 133 未回答 19
- 避難所が開設されるような災害が発生した（予測される）場合、避難所に行きますか？
① 行く 1042 ② 行かない 370 未回答 44
[行かない]と答えた方は理由もお答え下さい。(略)
- 飲料水・食料の備蓄をしていますか？
① 3日以上 630 ② 2日以下 533 ③ 何もしていない 270 未回答 23
- 非常用持ち出し袋を準備していますか？
① している 603 ② していない 824 未回答 29



- あなたのお住まいの地域の自治会長、班長（幹事、地区長）、民生委員で名前と住まいを知っているのはどなたですか？（複数回答可）
① 自治会長 816 ② 班長（幹事、地区長）824 ③ 民生児童委員 293 未回答 229
- 地域や自治会（自主防災会）の催しに参加していますか？
① はい 769 ② いいえ 666 未回答 21
- あなたの自治会の自主防災組織をご存知ですか？
① はい 891 ② いいえ 519 未回答 46
- 当地域では過去7回の大規模避難訓練を実施していますが参加されたことはありますか？
① すべて参加した 37 ② 3回以上参加した 147 ③ 1～2回参加した 540 ④ 参加したことがない 723 未回答 9
- 災害対策委員会では平成28年度に「中山台コミュニティ地区防災計画」を策定し、概要版を全戸配布してお知らせしましたが、ご存知でしたか？
① 知っていた 857 ② 知っていたが計画を読んだことはない 350 ③ 知らなかった 222 未回答 28
- 「中山台コミュニティ地区防災計画」は宝塚市地域防災計画に位置づけられていますか？ご存知ですか？
① 知っている 810 ② 知らない 619 未回答 27
- 宝塚市では土砂災害警戒区域を地図上に落としたハザードマップを数年に一度全戸配布していますが、これまで、ご自宅の位置を確認したことがありますか？
① 確認している 1270 ② 確認していない 178 未回答 8



5. 見守り—支える 日常／非常時

事例その1 みんなが主役の防災訓練

団体名 : あおぞら自主防災会

世帯数 : 30世帯

●この活動に至ったきっかけ

20年前より消防署の方から再三にわたり自主防災会結成の要請があり、自治会員の中でも近隣で助け合う共助の大切さも感じ、自治会の承認を得て平成27年に発足。近年、同じ敷地内に新しく7軒の家が建った（自治会には入っていない）こともあり、自治会員だけでなく形態を変更し、地域の方も含めた自主防災会として平成31年4月より新たに出発することになっている。

●活動の内容

定期的に会長宅に役員12名が集まり1年の活動計画を立てることから始め、社会見学、防災訓練、防災セミナーなどの打合せ、準備、反省会を行っている。

コミュニケーションをととても大切にされていて、みな仲良く協力体制が整っている。何より、役員はすべて女性（発足時、消防署の方より昼間は女性の方が在宅。女性の防災組織はとても良い事と言って頂いた。）なので細やかな配慮も出来、お茶を飲みながら楽しく忌憚のない意見を交換している。

その中で各々が他を思いやり見守り支えるという意識が高まっている。訓練等ではご主人様も大変協力的で、ありがたい存在となっている。

主な活動内容は、避難ルート確認、物資の運搬、要介護者救助、消火訓練、AED・応急手当、防災マップ作製、マスコット（あおちゃん、そらちゃん）・防災人形（いのちまもる君）作成。

社会見学（人と防災未来センター、大阪市立阿倍野防災センター、津波高潮センター）

今年は、京都市立防災センターに見学予定。

●参加者の意見など

◆良かったこと

防災訓練の取り組みや社会見学によって個々の危機意識が高まり、様々な事例を学ぶことが出来た。防災グッズの展示の見学を通し、各自が自宅にグッズを置くようになった。

定期的な役員会によってお互いの親交が深まり、協力関係が強固になった。

地域で助け合えるという安心感もできた。

◆改善したい事

今まで防災訓練は市の一斉清掃時に行ってきたが、さらに多くの方々に参加していただくために別の日に行っていきたい。（地域内は参加して下さるが周りに声掛けしてもその日の清掃時間と重なり参加してもらえない。）

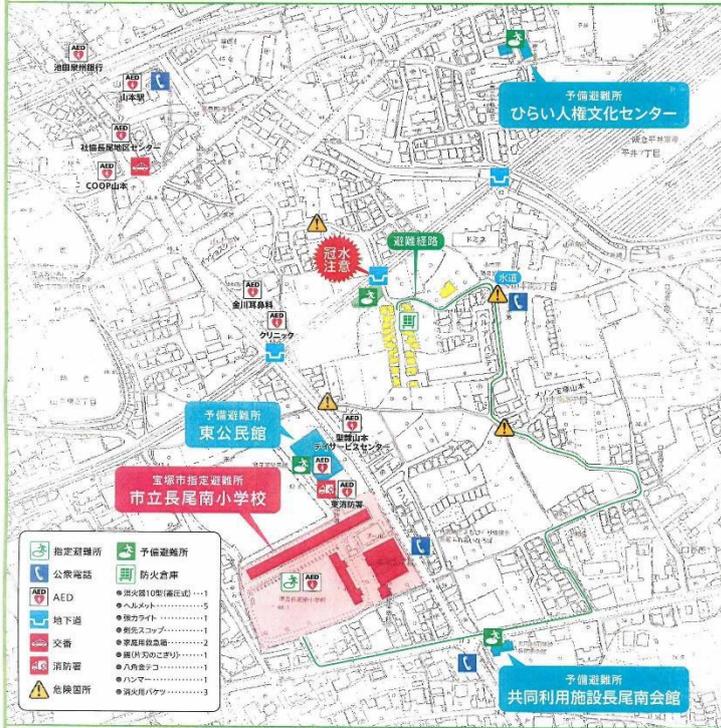
●今後への課題

住宅増加に伴い、新たな住民の方にどうすれば防災意識を高めてもらえるかが課題。もっと工夫をして啓発していかねばならない。

近くに有るアンダーパスの水位が上がった際の避難経路（一部私有地）の検討。私有地ではあるが、非常時には通していただけるよう、交渉をして行きたい。



あおぞら自主防災会 避難MAP



- | | |
|-------------------|-----------------|
| 宝塚市役所 | ☎ 0797-71-1141 |
| 宝塚市消防本部 | ☎ 0797-73-1141 |
| 宝塚警察署 | ☎ 0797-85-0110 |
| 大阪ガス (ガス漏れ通報専用電話) | ☎ 0120-7-19424 |
| 関西電力 | ☎ 0800-777-8043 |
| 宝塚市上下水道局 | ☎ 0797-73-3681 |

宝塚市雨量情報について

- 宝塚市では、市内15ヶ所で雨量観測を行っており、リアルタイムで各観測地点の雨量情報を提供しています。15分雨量、1時間雨量、連続雨量等が確認できますので、気象情報と併せて自主防災に活用してください。
- パソコンや携帯電話で「雨量情報」が確認できます。

宝塚市 雨量情報
ホームページ <http://www.03.city.takarazuka.hyogo.jp/>
携帯端末 <http://www.03.city.takarazuka.hyogo.jp/i/index.html>

災害時に提供される伝言サービス
①災害用伝言ダイヤル(171) ②災害用伝言板



防災人形
「いのちまもる君」



アンダーパスに設置された水位計

事例その2 自治会内外問わず出会った人に声掛け

団体名 : 宝塚御殿山北自治会

世帯数 : 235 世帯

●この活動に至ったきっかけ

住宅地の公園の遊具が劣化のため、よく使う保護者の方々へのご意見を聞いたのが最初のきっかけ。自治会独自の広報誌（自治会だより）で地域に即した新鮮な情報をしってもらう。

（大雨・台風・地震などの防災情報）と（防犯情報）などを中心に全世帯へ配布。

各組長の協力があってこそ出来た。（安全・一人暮らしの不安）など本年度は災害に見舞われた一年をきっかけに、安心してもらえる地域を目指す。その為に必要に応じた記事を回覧板（安否確認等）や全世帯配布を心がける。たった1枚でも回答があればご意見として回収。その甲斐あって気軽に直接意見など、まだまだ少数ではありますが、声を寄せられることもできるようになった。

●活動の内容

ほぼ毎日、出会う人には挨拶（おはようございます、こんにちは、こんばんは）と声掛けをするように心がける。そこから情報を得ることが出来る。例えば、通りがかりの人、公園掃除のとき、地域との交流の場、ペットの散歩の時などで声をかけることで自分はどんな人かを知ってもらう。壁を作らない。

自治会が保有している地域の情報（防犯・防災・周辺の環境状況など）を発信する。回覧板などの市の広報誌などは、ほとんど見ておられない。サインして回すだけが多い中、情報などを直接口コミ等で共有する手法。また自治会だよりで地域のことを知ってもらう。

●参加者の意見など

◆良かったこと

他の地域の情報内容など様々な取り組みを知ることが出来た。

◆改善したい事

一部の機関だけにとどまらない取り組みが必要。

地域環境に密着した独自性が必要。土砂災害警戒区域なので避難訓練などを呼びかけたい。

●今後への課題

出来るだけ多くの方にこの取り組みを発信できるようにしたい。

有志のグループを結成し、防災活動に取り組んでいきたい。

H30年12月/H31年1月

新年号 自治会だより

本年もどうぞよろしくお願い致します。

昨年は北部地震、大型台風、大雨などで大変な一年でしたね。

さて、第三公園の遊具が公園河川課のご協力で新しくなりました。
ずいぶんお待たせしてしまいましたが、公園内の土も足されて随分綺麗になりました。
お掃除の際は是非、皆様のご協力の程よろしくお願い致します。
第二公園は、子どもたちの利用が少なく鉄棒が劣化のため取り除いていただきました。
(有)丸芝土建さんによる公園整備と遊具の設置工事、第二公園鉄棒撤去等↓



以前自治会により設置されていた通学路の防犯ベル用の鉄柱も放置され劣化が進んでいたため利用者の安全のために撤去していただく事になりました。今年度中(3月末)までか、来年度の初めを予定。

また、3組の住宅地の車止めを新しくU字型に取り換えました。道路管理課のご協力。林道周辺の倒木、枯れ木などを市のご協力により安全を第一に撤去。見違えるほど視界も開けて綺麗になりました。岸田組さんによる倒木等の撤去↓



しかし、林道へと上がる枕木の階段の道については数年前有志で作られましたが、劣化の為大変危険です。ここは所有者の方の土地です。
この件については自治会アンケートにて皆さんの意見を聞いて、今後の課題として検討したいと思います。

事例その3 管理組合と自治会統合の取り組み

団体名：中山五月台6丁目防災委員会

世帯数：790世帯

●この活動に至ったきっかけ

現在、当団地内の防災活動は、各棟の防災責任者等で構成する「防災委員会」と自治会幹事等で構成する「自主防災会」が担っています。

台風や集中豪雨・地震による風水害・土砂災害などから身を守るためには、気象情報や地域の風水害情報（土砂災害警戒区域）の確認等と地域・家庭での備えが大切であります。

災害が発生した場合は、正確な情報の伝達が自主防災組織の大きな役割となります。しかし複数の組織による活動は、混乱を招きかねず、管理組合と自治会との協議に基づき両組織の統合が議決されました。

中山五月台6丁目住宅団地災害警戒区域



●活動の内容

- ・消防用設備、自主防災機材の点検と整備。
- ・年3回の防災・消火訓練の実施と防災意識の啓蒙。
- ・土砂災害警戒区域の現地調査（砂防堰堤、急傾斜地）。
- ・中山台NT災害対策訓練に併せて通報訓練&防災学習会の開催。（集会所で、2017年から実施して参加人数1年目約50名が2年目には約150名と大幅に増加した。）

●参加者の意見など

◆良かったこと

- ・アルファ化米の体験、非常時に備える1人3日分の備蓄品の体感ができた。
- ・転倒防止器具の正しい使い方がわかり我が家でも対策をする。

◆改善したい事

- ・ 2年目で多くの皆さんが参加して防災委員のみなさんが混乱したこともあり、事前の準備を徹底する。
- ・ 参加者への配慮も考える必要がある。

●今後への課題

(通報訓練&防災学習)

少しずつでも参加者が増えていく工夫した訓練・学習を継続していく必要があります。



防災グッズ・備蓄品



急傾斜地の調査

事例その4 防災用品の展示と購入代行

団体名 : 中山台自治会自主防災会

世帯数 : 620世帯

●この活動に至ったきっかけ

当地域は立地上、避難所に行くには坂を上らねばならず、高齢化が進み、かつ水害などの心配もないことから自宅避難を望む世帯が多く、防災訓練も自宅避難を前提としている。

自宅で避難するためには最低限の食料と水、被害を少なくするための防災用品などの備えが必要で、万が一自宅での避難が難しい状況になり近隣に身を寄せる事になっても、水や食料があれば近隣に負担をかけずに済む。そのためにも防災用品の備蓄が急務と考え、いかにそれを推進できるかという視点で、この取り組みを始めた。

●活動の内容

毎年、安否確認訓練の最後に、各丁目に設けられた本部にて防災用品の備蓄啓発を行っている。長期保存可能な水やアルファ化米、缶詰のパンなどの食料と、非常用トイレ、手回し充電式ライ

ト・ラジオ、アルミ製防寒具、水保存タンク等の備蓄物資の他、耐震ブレーカーや扉ストッパーなどの防災用品など、実際のものを手にとって見たり、試食したり、パンフレットのようにして紹介したりして、まずは知ってもらうことから始めた。

購入希望者には購入の代行を行い、購入したものは自宅まで届ける事をうたった。高齢者の多くはこういったものの購入先がわからず、水などは購入しても重くて持ち帰ることができないことに配慮した。ここ数年で防災用品もあちこちで販売され、手に入りやすくなり、食料もローリングストックが推奨されてはいるものの、やはり高齢者には実践できない部分がある以上継続は必要と考える。

●参加者の意見など

◆良かったこと

- ・揃えないといけないと思ってはいたが、自分ではできなかったもので、これで安心した。
- ・水を届けてもらってよかった。(5年保存水6本)

購入者のほとんどが高齢の独居であるため、届けてもらえた事にとっても感謝された。

●今後への課題

- ・展示場所に来ることのできない高齢者世帯へのアプローチを考える必要がある。
- ・お金も発生することになるので、押し付けにならないような心配りが必要。
- ・民生委員と連携しながら進めていくことが最善策か？

防災用品の展示と購入申込書



防災用品申込書

上下2か所に記名し、ご希望の商品に必要個数をご記入ください

氏名： _____ 住所： _____ 電話： _____

商品名	参考価格	個数	商品名	参考価格	個数
1 洋式便器用簡易トイレ20個	2,580		2 非常用トイレ20個	2,570	
3 アルミ簡易寝袋	864		4 アルミブランケット	518	
5 フード付きあったかボンチョ	1,382		6 家庭用感震ブレーカー	2,980	
7 折り畳み式水タンク5ℓ	496		8 折り畳み式水タンク10ℓ	561	
9 手回し充電ラジオライト	2,839		10 非常用液体ローソク	1,505	
11 カセットコンロ	2,800		12 カセットボンベ	298	
13 セーフティストッパー	839		14 6枚入りストッパー	1,280	
15 ガラス飛散防止シート	1,516				
非常食	参考価格	個数	非常食	参考価格	個数
16 白米	257		17 赤飯	312	
18 わかめご飯	293		19 白がゆ	238	
20 田舎ごはん	312		21 梅がゆ	257	
22 山菜おこわ	348		23 五目ごはん	312	
24 松茸ごはん	367		25 えびピラフ	348	
26 ドライカレー	312		27 チキンライス	312	
28 8種類セット	2,332		29 非常食1DAYセット	1,944	
ご飯6種とおかず2種			チャラシ参照		
30 パン アルミパック5年保存	702		31 新食缶ベーカリー5年保存	475	
3食(オレンジ・黒豆・プチフェール)			(プレーン(卵不使用))		
32 災害備蓄用パン缶詰5年保存	378				
オレンジ()個・プチフェール()個・クランベリー&ホワイトチョコ()個					
33 5年保存 富士の水2ℓ×6	1,944		34 7年保存 保存水2ℓ×6	2,203	

点線で切り取り、上の部分をご提出ください

申込受付証

氏名 _____ 様
 3月18日、防災用品の申込を承りました。商品が届きましたら、ご連絡いたします。
 代金は商品と引き換えにてよろしくお願ひ致します。
 注) キャンセルはご容赦願ひます。 問合せ

事例その5 防災訓練／防災研修旅行／広報誌「まめだより」

団体名：米谷自治会自主防災会
世帯数：700世帯

●この活動に至ったきっかけ

自治会としては60年以上の歴史があり、H25年(2013)1月に自主防災会を立ち上げ、「自助・共助の活動を広げて地域ぐるみで守る」で活動しています。

活断層が自治会エリア内を走っており、崖くずれ警戒区域、大堀川氾濫による浸水予想地域でもあり、阪神淡路大震災では大きな災害を受けました。

また、まち協のメンバーとしてまち協防災部会にも参画している。

●活動の内容

5月の「市民一斉大掃除」の後、東消防署のご協力を得て、総合防災訓練・防災フェスタを開催し、初期消火、救出、救命、搬出などの訓練や防災用品の展示、炊き出しなどを行っている。

また、最近では隣接の自治会との共催で訓練を実施している。

毎年自治会で行っている日帰り親睦バス旅行に、県内の防災教育施設訪問を加え、研修親睦バス旅行を行っている。今までに、三木市の兵庫県防災センター、姫路防災プラザ、人と防災未来センターなどを訪れた。

自治会広報誌(季刊)「まめだより」では、「シリーズ 自主防災・大切な命を守るために」として、防災訓練の予告・報告や防災関係行事参加報告、タイムリーな防災・減災に役立つ情報、防災リーダー養成講習会(防災士)受講報告などを掲載している。

防災倉庫を整備し、防災用具の整備や防災食品などの備蓄も行っている。

●参加者の意見など

◆良かったこと

防災訓練の参加者も年々増えており、会員の皆さんの防災意識も少しずつ高くなっているのではと思う。

防災研修旅行では、防災研修施設での体験を通して、防災・減災に対しての再認識とあらためての備えの重要性を感じた。

最近では、防災リーダー養成講習会(防災士)修了者が毎年おり、10名を超える防災士がいる。

H29年には宝塚防火協会・宝塚市消防署より「自主防災特別表彰」、H30年には「兵庫県くすのき賞」をいただいた。



◆改善したい事

災害時要支援者支援や平常時の見守りの活動が立ち上がっていない。
 会員の皆さんへの理解・協力を得られるような活動が必要である。
 防災士も年々誕生しており、更なる活躍ができるように体制を整えていく必要がある。

●今後への課題

阪神淡路大震災では大きな被害を受けたが、20 数年が経過し、防災意識が薄れていく中、いろいろな機会、方法で防災・減災への取り組みへの啓発活動を続けて行く。
 また、災害時の広報・情報的手段として防災スピーカーや防災ラジオの整備も検討していきたい。

近隣4自治会 共同開催

米谷自治会
宝塚赤布住宅自治会
売布園住宅自治会
ヒビアめふ2自治会

一斉清掃が
終わった後は!

今年の「マメダヨリ防災フェスタ2019」は近隣の4つの自治会が一丸となり、さらにパワーアップ!「いざ」という時に備えないために、防災訓練を兼ねた体験型イベントで、みんなで楽しく「防災・減災」について学びましょう。一斉清掃で街が美しくなったその後に、ご家族・ご近所さん皆さんでお越しください。

参加者全員に
防災グッズを
プレゼント!

消防車
展示

マメダヨリ

防災フェスタ2019

開催決定!

5月19日(日)

雨天 決行

AM 9:30～受付開始
AM 10:00～訓練開始(正午頃まで)

中国道高架下公園
(例年、益譲り会場となっている所です)

新企画!!
看護師が教える
応急処置

簡単な応急処置を
おぼえましょう!

三角巾の
使い方は?
止血の仕方
教えて!
冷やすの?
温めるの?
何を準備
したらいいの?

初期
消火訓練

AED
講習

みんなが
たのしみ!

大好評!!

ロープ
結び
講習

当日は宝塚東消防署にもご協力いただき、
役員および防災士もお手伝いします。
※内容は都合により変更になる場合があります。予めご了承ください。
※詳細は、後日回収および掲示欄にてお知らせします。

**防災
スピーカー**
の話

宝塚市では、防災行政無線(すいれ防災スピーカー)の設置を市内約40カ所を進めています。〔広域 たかづがよ!〕。当地区でも、売布小学校の屋上に2019年度末までに設置する予定です。これは、地震や台風などの自然災害に加え、ミサイル発射情報などの緊急情報を住民に伝達するもので、全国の自治体でも活用されています。一方、米谷会館の屋上にも、ほとんど利用されていない小さなスピーカーが四方に向けて設置されています。テストしてみたところ、音量は小さく、老朽化によるホーンの変化・故障もあり、実用性に乏しい状態でした。そこで今回、実用化に向け機材を一新することを検討し、完成すれば、設備の点検と訓練を兼ねて、防災フェスタや益譲りなどのイベント時の案内放送などに活用できるほか、本館には予備電源として、近隣エリアに密着したタイムリーな情報を発信することができそうです。(もちろん、ない方がよいのでは?)

なお、防災スピーカーは、あくまで戸外にいる人への目による情報伝達の手段であって、特に大雨時や窓を閉め切った室内では聞こえづらいそうです。「広域 たかづがよ!」によるすいれ防災スピーカーでの放送と同じ内容のものも、M宝塚(B3.5MHz)でも流すようにしていくとのこと。メディアが増え強化した今日では、「音によるシグナルな設備」も災害時の情報伝達手段のひとつとして、最低限確保しておこう、というのが米谷自治会自主防災会の考えです。

**とりの
たかひ**
TAKAHI

米谷の語り部
和田家13代当主 和田 正宣さん



今回は旧和田家住宅の旧所有者で、和田家13代目当主の和田正宣さんにお話を伺いました。和田さんは、ご自身が平成7年(1995年)の阪神淡路大震災の直後に暮らした旧和田家住宅(和国邸)で、2006年～2018年までの12年間「寺子屋」として「古文書」の語り部活動を行っていました。宝塚市内はもとより、各地から歴史ファンが集まり、宝塚の近世・近代史への想いを伝えていました。

今年、数えで98歳の和田さんのお話はとても魅力的。単に歴史を語るだけでなく、まるでその時代を実感し目の当たりにしてきたような、独特の語り口調にぐいぐいと引き込まれていくのです。明治以降、和田家は波乱に満ちた歴史を歩み、明治18年(1885年)、祖父にあたる11代目のキリスト教への改宗、まだまだ封建的な考えが優勢な時代、それまでの「庄屋」としての威厳を失い、村

人々からは「悪奴(中国語でイエスの意)と恐れられ、疎まれてしまいます。秋祭りの日には土俵を踏破で覆われてしまったり、小学生の頃、だんじりを近くで見たかったんやけどな、近寄らせてもらえなかった」と寂しかった少年時代を語ってくださいました。その後、村人との信頼はなくなったものの、激動の時代、戦争や高度経済成長期を駆け抜け、そして平成7年の阪神淡路大震災で、

ご存じの通り、宝塚も大きな被害を受けました。和田邸も半壊状態で、同年3月31日をもって解体が決まっていたそうです。それを興の職員の方が買って止め、文化庁に寄付し、解体を免れました。翌年宝塚市は有形文化財として指定、条件として建物と土地を市に寄附する事になりました。(急遽、今のお宅まいを購入されたそうです。)

今後は近い将来、中央図書館で「古文書」を読む

寺子屋(を)再開されるそうです。また、旧和田家住宅も、単なる歴史資料館としてではなく、当時の暮らしを体験できるような所になるといいなあ。寺子屋で学んだ人たちが、歴史を語り継いでくれたらいいなあ」と夢を語っておられました。



宝塚市内最大の商家通の一つとされている「旧和田家住宅」の古文書や資料が保管されている。建築は江戸中期とされているが、寛政10年(1798年)に火災で焼けた後、江戸時代初期より建てられたことが確認されている。

**再生資源は、
子供会の回収日に!!**

米谷自治会のエリアには以下の3つの子供会があり、運営資金の一部に当たるため、各自月に2回資源ごみを回収する。回収はそれぞれで実施している。回収には必ずお申し込みを。各子供会の資源回収日は、自治会から配布する「ごみカレンダー」に毎年度から(平成31年4月)から記載することとしました。回収場所や対象など詳細は、回収板での資料配布や米谷自治会の掲示板、同ホームページ(<http://maitani.org/>)にてお知らせいたします。皆様のご理解とご協力を重ねてお願いいたします。

- ラビット子供会(米谷1丁目)
- フラッキー子供会(米谷2丁目)
- わかば子供会(売布2.4丁目一部、売布3丁目)

(宝塚市の資源ごみ回収とは別に子供会独自の活動での回収のため、回収日や回収場所、回収の対象などは宝塚市発行の「ごみカレンダー」とは異なります。)

災害の発生に備えて

～災害ボランティアセンター運営訓練の実施～

宝塚市社会福祉協議会ボランティア活動センター

宝塚市に災害が起こったとき、ぷらざこむ1に「災害ボランティアセンター」が立ち上がることはご存知でしょうか？2017年からその周知と災害ボランティアセンターの運営を市民の手で担うことを目的にぷらざこむ1で「災害ボランティアセンター運営訓練」が行われています。ボランティアグループや地域の方々、関係団体等、多くのボランティアの協力により災害ボランティアセンターは立ち上がります。また実際の災害時には市内外から多くのボランティアが駆け付け運営が行われます。平時から訓練を実施し、実際の動きをシミュレーションすることで、被災後の混乱の中でも迅速な立ち上げと的確な運営を行うことができるように目指しています。

明日来るかもしれない災害に備えて、「災害に強い地域づくり」が重要になっています。

日頃からの顔の見える関係や連携の重要性を大切にしながら災害に強いまちづくりを目指していきましょう。

訓練風景



駆けつけボランティアの受付



作業内容の説明

この度、本事例集の発行に際し、活動内容をご紹介頂いた多くの地域の皆さん方を始め、宝塚市、ボランティア活動センターのご支援ご協力に心より感謝申し上げます。

私たちの活動は被災地支援から始まりましたが、東北の皆さん方から沢山のことを学ばせて頂いた結果、本事例集の発行へも繋がったと思います。

「あの時は、非日常が日常だったんだよ」と、発災時を振り返り、南三陸町歌津の地域のリーダーの方が語られました。災害は一瞬にして私たちの生活を「非日常」へと変えてしまい、そしてそれが「日常」となってしまうのです。

そして、その時試されるのは、いかにそれまでの「日常」を多様な視点で築いていたか、という当たり前のようで、とても難しい一面をも持ち合わせている、何もなかった時の「日常」の有様です。さらに、何より大切なことは、その有様が「一人、一人が違う」ということに気づき、受け止め、お互いに寄り添う心を持ち合う、ということ。そして、私たちは、その為に、様々な立場や特性をもって生きる皆さんと出会う機会を創り、お互いを知り、「日常」を共に分かち合う場面を多く持つことが必要だという確信に至りました。

私たちはこのことを一人でも多くの皆さんに伝えるべく、「えらいこっちゃ！でも大丈夫。キャラバン」として、「今、ここで地震が起きたら？あなたにとって一番大切なことは？」など、「あなたにとっての備えとは？」をテーマとした座談会を実施しています。その中で「宝塚ろうあ協会」の方たち等との交流が始まり、2017年10月には「聴覚障害者の皆さんと考える避難所運営訓練」の実施に至りました。また、同年12月には聴覚以外（視力、精神、身体）の障害者団体の方や、食物アレルギーや不登校等のセルフヘルプグループの皆さんと共に「防災・減災」をテーマに交流会を開催しました。このような機会を持つことにより、お互いの「日常」に出会い、分かり合う一歩となり、それが「非日常」への備えとなることを参加者の皆さんと共有できたのです。

今後もこのような機会を継続し、さらに行政各機関や、中間支援組織、当事者団体の皆さん、地域の皆さんとの連携を深め、「誰もが主役」となる防災・減災活動の実現を目指していきたいと思っております。



筆談による情報伝達



作業指示

避難所運営訓練



南三陸町からの報告講演



みんなで手話歌

ワンコインチャリティコンサート

**「えらいこっちゃ！でも、だいじょうぶ。」キャラバン
あなたを救う“備え”とは？**

宝塚広域ボランティア連絡委員会

- ①「防災」と聞いたイメージは？
だれかがしてくれること 市役所や自治会の係の人の仕事？
いえいえ。市民誰もが、考え、実践できることがあります。
- ②「えらいこっちゃ！」を想像してみましょう。
今、ここで震度7クラスの地震が起こったら…。
自分の身を守るためにできること
お互いの身を守るためにできること
離れた大切な人との連絡は…。
- ③「でも、だいじょうぶ。」となるために あなたに、必要な“備え”とは？
今、自分で出来る事。
みんなで協力して考えておくこと。
誰かにお願いしておくこと…
あなたにとって必要な備えを考えることで
「でも、だいじょうぶ。」となる安心につながります。
- ④「えらいこっちゃ！」は人それぞれ、違います。
「でも、だいじょうぶ。」と、あなたを救う備えも違います。
どこで、災害に遭うか分かりません。

困った時に試されるのは、
何もなかった時（災間）にどんな想像ができていたか、
あなたを救う備えの為に、どんな工夫や知恵をみんなで考えていたか、
ということです。

「防災」の主役はあなたです。
ご自宅でご家族と、地域の仲間と…、いろんな機会に
あなたにとっての「えらいこっちゃ！」を想像し、
「でも、だいじょうぶ。」の為に必要な備えを考えたり、話し合うことから始めましょう。

あなたにもできる「でも、だいじょうぶ。」はたくさん、あります！

昨年の災害を振り返って～多発する災害～

ここ数年、災害が多発している。昨年を振り返ってみても、1月に起きた草津白根山の噴火に始まり、3月には7年ぶりとなる新燃岳の爆発的噴火、6月には大阪で震度6弱の地震が発生した。災害は続く。7月には広島県・岡山県・愛媛県などを中心に、河川の氾濫や洪水、土砂災害などの被害が発生。死者は200名を超え、住家の全壊6,758棟等の被害を出した。9月には台風21号の発生、そして北海道で震度7の地震（北海道胆振東部地震と命名）が発生した。噴火に地震、風水害と北から南までどこにいても災害の被害に遭遇してもおかしくない1年であったと言える。

このような状況の中で、宝塚市では24年前の阪神・淡路大震災の教訓を無にしないため、各地域で様々な防災対策が講じられてきた。本事例集はその一端を紹介したものであるが、取り組みの中には実に有効なものが数多く掲載されている。今回はこれらの事例を踏まえ、防災対策に必要な要素を確認したいと思う。

防災対策に必要な4つの要素

①可視化

事例の中には、地域の資源や避難所、または危険箇所などが示されたマップの作成に着手した取り組みが紹介されている。防災対策でまず重要なことは何か。それは地域内に住む一人ひとりが、「私たちの地域は今、どのような災害の危機に直面しているか」を認識することであり、「そのためにできることや活かせる資源は何か」を考えることである。そのためにマップや要援護者登録制度などで「可視化」することが重要である。

②協議と協働

どの事例もそうであるが、「ともに」「話し合い」「汗を流す」ということが前提となっている。いざという時に、「はじめまして」では迅速な対応はのぞめないし、力を合わせることで時間を要してしまうだろう。どれだけ災害に備えて、協議と協働を地域の中で繰り返し行っていくか。そのことで確実に災害対応力は高まっていく。

③多様性とユニバーサルデザイン

現在の社会のキーワードとなっている「多様性」は、災害対策においても然りで、この視点を外して災害対策はあり得ない。障がい者や外国人、性別を問わずに誰にもやさしい対策を講じること（ユニバーサルデザイン）が重要であり、合理的な配慮と多様性を基調とした人権感覚が、結果的には災害関連死を抑止し、災害時においても人としての尊厳を保障される災害対策になる。

④要配慮者≠患者（守られる存在）だけではない

「エンパワメント視点」、「ストレングス視点」とは、その人には力がある、ということ。その人には本来、力があって、その部分を高めたり、強調することにより、その人の能力が発揮できるよう支援を行う。はたして私たちは災害時に彼らの「力」を信じ抜くことができているだろうか。要配慮者を「患者」にしてはならない。避難所や福祉避難所を「病院」にしてはならない。あくまでも要配慮者は「主体者」であり、避難所、福祉避難所は「生活の場」だということを今一度、私たちは肝に銘じたい。

編集発行 宝塚広域ボランティア連絡委員会
協 力 宝塚市
宝塚市社会福祉協議会ボランティア活動センター

問い合わせ先 宝塚市社会福祉協議会ボランティア活動センター
電話：0797-86-5001 FAX：0797-83-2425
E-Mail：avolun@nifty.com

この事例集は、宝塚市きずなづくり推進事業補助金交付事業で作成しました。